

Title	飛驒の傳説と民謡(高木清太夫著, 高山町住伊書店發行)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.1 (1934. 4) ,p.177- 177
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340400-0178

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

飛驒の傳説と民謡

(高山清太夫著) 高山町住伊書店發行

本書は飛州志・益田郡誌・飛驒史壇・飛驒風物記・斐太後風土記等より材料を採り、飛驒地方の傳説と民謡とを廣範圍に互つて収録したものである。而して傳説は從來語り傳へられてゐたものに潤飾を加へ、一般家庭の讀物としての體裁をとつてゐる。本書の目的は若いゼネレーションに對し、その郷土を知らしめ、郷土人としての教養を與へ、更に愛郷心をも養成せんとする所にあるとみるべきであらう。教育に従事せらるゝ編者の尊い心根を知るべきである。本書に收むる物語の中には、そのまゝ修身の教材に採用し得るものすら尠なからず存する。郷土教育に關心を有する人に一讀をおすゝめしたい。(定價金五拾錢)(有賀春雄)

文化

(東北帝大文科會編) 岩波書店刊行

東北帝國大學法文學部が創設十個年を期して今春より月刊雜誌「文化」を世に出すこととなつたのは誠に慶賀すべき事柄である。その學界に對する潑刺たる抱負は卷頭の言辭に溢れてゐる。

山田孝雄氏の優秀なる論説「音樂より見たる源氏物語」を筆頭にして、大類伸(ルネサンス人の中世觀)、古田良一(山鹿素行の史學說)、武内義雄(易の成立に就いて)、鈴木權三郎(ヘーゲルの希臘喜劇論)、林鶴一(志筑忠雄)の諸氏が各々その専門に即して何れも興味深き研究を發表されてゐる。卷末には學界展望とし

書評

て最近に於ける我國の哲學界、國史學界の消息がまとめられてあり、更に新刊紹介と學内消息とが附加されてゐる。全一四一頁、定價金五拾錢、その多幸なる將來を祈つて止まない。(近山金次)

寄贈交換圖書雜誌目錄

- | | | |
|---|-------------|-------------|
| 足立喜六 | 長安史蹟の研究及同附圖 | 東洋文庫 |
| 岡井慎吾 | 玉篇の研究 | 東洋文庫 |
| 塚本善隆 | 唐中期の淨土教 | 東方文化學院京都研究所 |
| 橋本增吉 | 東洋古代史 | 平凡社 |
| 大同三年曆時憲書 | | 滿洲氣象臺 |
| 相模國府趾推定圖 | 一、二 | 武相考古會 |
| 防長史學 | 四の二 | 防長史談會 |
| 金雞學院叢書 | 七四 | 金雞學院 |
| 國維 | 九の一、二 | 國維會 |
| 名古屋溫故會報告 | 第十七 | 名古屋溫故會 |
| 名古屋溫故會繪葉書 | 二、一六一—一七一 | 名古屋溫故會 |
| 筑紫史談 | 第六十集 | 筑紫史談會 |
| 備後史談 | 十の一 | 備後史談會 |
| 東豫史談 | 一九 | 西條史談會 |
| 鴨臺史報 | 第二輯 | 大正大學史學會 |
| Boletín oficial de la secretaria de relaciones exteriores | | |
| Tomo XXI Numero 10, 11 | | |
| 風俗研究 | 一六四、一六五 | 風俗研究所 |
| 神社協會雜誌 | 三二の一二 | 神社協會 |

(129)

一七七